
勉強部

momo

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

勉強部

【Nコード】

N8823Z

【作者名】

momo

【あらすじ】

学年2位の松井流は放課後の帰り道、忘れ物に気づき教室に戻ると補習を受けている多塚りとを発見する。担任は放送で呼び出され流が代わりに勉強を教えることになり?!これから彼らの物語ははじまった

入学式

今日はここ柚舞学園高等部の入学式。

といっても初等部からのエスカレーター式の学校なので、周りは知っている奴らばかりで、とくにこれと言ったことはない。

「おー。今日は入学式だな流」

クラス発表の名簿を上級生から受け取ると同時に、初等部からの親友が話しかけてきた。

「おはよう愛斗。いい天気だな」

こいつは山側愛斗。

見た目通りイケメン。

しかも運動神経抜群。

普通であつたら、モテる要素満載だ。
だが、こいつにはすごい欠点がある。

「今年こそテスト万年最下位脱出するぞー!!」

そう、こいつはバカだ。

「はいはい、頑張ってくださいねー」

「おい、なーがーれくん。お前本気で応援する気ねーだろ」

「だってお前それ毎年言ってるじゃん」

「う それは禁句 だぞ」

どんどんちっさくなつてやがる。

「やつほー、2人とも！今年も同じクラスだね。よろしくー」

「おはよう。いろは」

愛斗の陰から現れたショートカットの美少女は、愛斗と同じく、初等部からの親友天宮いろは。

美人でスポーツ万能、そして成績だって優秀。

学年1モテるといつても過言ではない。

性格は凶暴的なんだけど

「そ、そうだ、お前、俺のことバカにしてるけど、流だつて万年2位じゃんかよ。毎年いろはのこと抜かせねーでさ」

う 痛いところを。

確かに俺は中等部の頃からずっと2位だ。

いくら頑張つてもこいつだけは、いろはだけは抜かせねえ。

でも、正直こいつにだけは言われたかねえよ。

「最下位と2位を一緒にするんじゃないねー」

「ちょ、いろはー！なんか言つてやってくれよー。流が俺のこといじめてくんだよー。わあああん」

「ちょーつと！どさくさに紛れて足掴むんじゃないのー」

まあ今年もこいつらと同じクラスで平凡に過ごせそうで何よりだ。

そして3人で体育館に入り、入学式が始まった。

学年1位のいろはが宣誓を読み上げる。

くそ、俺が読みたかった。

今年こそいろはを抜かしてやんよ。

宣誓が終わり、新しく担任となった山城とやらが顔なじみのクラスメイトの名前を読み上げる。

「天宮いろは、有田唯、紫月流」

「はい、」

名前を呼ばれると同時に立ち上がる。

そしてさっきまでと同じく読み上げが続く。

「鈴木聖、園川凜、多塚莉都」

「はい、」

聞いたことない名前とか細い声。

多塚莉都？聞いたことないな、転校生だろうか。

俺は横で立っている顔なじみの友、直也にこそつと聞いてみることにした。

「多塚莉都って聞いたことあるか？」

「いや でも超かわいくね？あんなに可愛い子知らねーわけないんだけどなー」

可愛いのか？そういえばつきりと顔見てなかった。
そう思い斜め後ろに視線を移す。

ドキッ。

かわいい。

透き通るような白い肌に大きな丸い目、大人しそうで、お人形みたいな顔立ち。

前髪パツツンのセミロングがそれはそれはよく似合っていて。

ぱちっ。

目が合った。

やば、見過ぎたかな。

多塚莉都は顔を出し赤らめ、俺から視線を外し俯いてしまった。

そして別のクラスの名前読み上げや校長の話へと続いていき、やがて入学式が終わった。

教室に入り、HRの時間になると、山城の自己紹介から始まった。

「僕は 山城賢です。よろしく お願いします。担当教科 は数学です」

あまりにも自信のなさ。

まだ若いし新任なんだろう。

「それじゃ出席番号1番の人から 自己紹介を」

出席番号1番のいろはが立ち上がる。

「かわいいー」

「いろは様と同じクラスになれて光栄ですー」

などの男どもの歓声が広がる。

物好きなやつら。

そして俺の自己紹介も終わり、次々と自己紹介が進んでいく。

「じゃあ 次の人」

ガタッ。

多塚莉都だ。

「多塚莉都です。東京から引っ越してきました。えと よろしく、
お願いします」

あの時と同じように、か細い声でそう言った。

「かわいいー」

「守ってあげたい」

などの声が飛び交う。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8823z/>

勉強部

2012年1月1日21時52分発行